



紹介者

吉川 淳

野村不動産ホールディングス
取締役会長

荒木 秀文

太陽工業
取締役社長



今こそ！世の中のお役に立つ。

リモートワークの始まった社内が静か過ぎるのであろうか？ 窓から見える都会は静まり返り、新幹線や在来線の線路から発せられる音だけが耳に入ってくる。

朝日を浴びた街はキラキラと輝き、静寂に包まれ、とても美しく見える。この風景に違和感を覚え、街全体を凝視していると見えないモノが見えてくる。

街は燃えさかり、炎や煙が立ちのぼり、ありとあらゆるビジネスラインが断絶され、壊れ、人々が涙する風景が脳裏に映った。

この風景はどこかで見た記憶がある。

「太平洋戦争が終了し、焼け野原となった街」と似ている。焼け野原になった市場にどのような価値を提供できるのか？ 誰のために役立てるのか？

この時代のビジネスマンはその日を生きるために、ありとあらゆる世の中の困りごとを解決し、商売にしてきた。「世の中のお役に立つことは何か？」その観点でスピードを持って行動したことで、多くの企業が生まれ、今なお事業を継続している。あの時代は事業を興す絶好の機会（チャンス）だったのだと思う。

そうであるならば、今この瞬間、こんな時こそ、どのような価値を届ければ社会のお役に立てるのか？ 今一度その原点に立ち返らなければならない。お客さまの期待に応え、期待を超えた価値を提供できる絶好の機会（チャンス）と捉えることで、仕事の原点に触れることができる。

そのような期待を超えた先には必ず感動がある。この感動を今、人々が待ち望んでいると強く思う。

私たち太陽工業は社会のお役に立つことを使命に、膜を使い、柔らかい発想で数々の事業を展開してきた。この使命を社員一丸となって、深く共鳴し、考えることで、このコロナ禍を乗り越え、さらなる輝きを放つことができると確信している。そんな私の手元には未だアベノマスクは届いていない。必要なときに届けば感動しただろう。

おも念いはそれに携わる人々の情熱によって届けられるのかもしれない。

（アベノマスクは5月27日に届きました）

▶▶ 次回リレートーク

藤森 伸彦

藤森工業
取締役副会長